

7月 家庭防災の日

地域の災害について調べよう

今月は、この辺りの地域で起きた災害について調べる月になっています。尾張西部ではこれまでにどのような災害が起きてきたのでしょうか？

主なものをかんたんに紹介しておきますので、夏休みを利用して、是非詳しく調べてみましょう。

ちなみに、私たちが住んでいる濃尾平野は、昔、海だったとされています。大雨や台風、洪水、土砂崩れがよく起こります。



濃尾地震

明治24年(1891)10月28日に岐阜県本巣郡根尾村(現 岐阜県本巣市)を震源として発生したマグニチュード8.0の国内最大の直下型地震です。

この濃尾地震によって、津島神社の廻廊は傾き、社務所・宝庫は倒壊し、灯籠が壊れました。

伊勢湾台風

昭和34年9月に、伊勢湾周辺を襲った大型台風。台風による死者・行方不明者の数は現在でも最大級と呼べるものです。

愛知県・三重県を直撃し、名古屋市は暴風や高潮により新川・天白川・山崎川では、堤防が決壊し浸水被害などが起こり異例の災害となりました。

東海豪雨

平成12年9月11日から12日、名古屋市など愛知県は激しい集中豪雨に見舞われました。11日から12日の総雨量は567mmを記録しています。

2日間で年間降水量の3分の1という激しいものでした。

名古屋市を流れる庄内川・新川・天白川・境川では、堤防の決壊、浸水被害などが発生しました。